

**【開催日時等】**

- 1 開催日時：令和6年2月13日（火） 午後3時30分から午後4時45分
- 2 開催場所：長野市役所第一庁舎5階 庁議室
- 3 出席者：別紙名簿のとおり

**【議事次第】**

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 協議事項
  - (1) 令和4年度連携事業の達成状況について
  - (2) 令和5年度連携事業の進捗状況について
  - (3) 第二期長野地域スクラムビジョンの一部改定について
- 4 意見交換
- 5 閉会

**【議事要旨】**

**2 挨拶（長野地域連携推進協議会会長 長野市 萩原市長）**

本日はお忙しい中、長野地域の市町村長の皆様にご出席いただき、長野地域連携推進協議会が開催できましたことに厚く御礼を申し上げます。

さて、過日、総務省統計局が発表した、令和5年の住民基本台帳人口移動報告によると、長野県全体の社会増減は、マイナス1,928人の「社会減」となり、令和4年の「社会増」595人から再び減少に転じた。これは、新型コロナの収束に伴い、東京一極集中の傾向が再び強まったものと考えている。しかしながら、新型コロナを契機に大都市部で高まっている地方回帰の流れは、長野市においても依然として感じており、移住・定住相談デスクへの相談件数は、年々増加傾向にあるほか、行政支援による移住者も大幅に増えている状況である。本市としても、引き続き相談者に寄り添うきめ細やかな移住相談と支援制度により、移住を推進していく。

これまでも皆様とは、移住・定住や結婚支援事業など、合計58の事業に連携して取り組んできましたが、定住人口の確保はもとより、交流人口や関係人口を、生活圏が同じ圏域全体で考え、地域の魅力を高めていくことが、本協議会の目的の一つでもある。それぞれの市町村が持つ強みを生かし、弱みを補完できるよう一層のご協力をお願いする。

本日は、令和4年度と5年度の成果指標の報告と来年度に向けたスクラムビジョンの改定についてご説明申し上げます。限られた時間ではあるが、長野圏域の更なる発展に向け、忌憚のないご意見を賜るようお願い申し上げます、挨拶とする。

**3 協議事項**

- (1) 令和4年度連携事業の達成状況について

事務局

資料1について説明

#### 坂城町 山村町長

公共交通利便性向上事業で令和7年までにSuica機能を持った地域連携ICカードの導入の説明があった。我々もしなの鉄道沿線を含めたしなの鉄道の事業にも協力しており、まちの中でのキャッシュレス化も考えている。Suica導入による利便性向上で新たな内容を盛り込んでいくのか。

#### 事務局

周辺市町村へ移動するバスを含むバスへのSuica機能を持ったカードの導入を令和7年春に向けて取り組んでいる。現時点で新たな内容の具体的な話はないが、今後可能性はある。

#### 長野市 荻原市長

農家民泊受入事業は、とても良い事業だと考えている。コロナも収束し人の動きも戻ってきた。首都圏の学校と連携し、多くの子どもたちをを受け入れ、地域との交流が深まると良い。

#### 信濃町 鈴木町長

信濃町は千葉県流山市と姉妹都市になっており受け入れている。また、台湾とも長年お付き合いがある。子どもたちにとっても良い体験となり、受け入れる農家も楽しみにしている。

#### 長野市 荻原市長

話は変わるが、昨年からは豊島区の小中学生は戸隠スキー場のリフト券を無料にした。リフト券を無料にしても親と一緒に来て、飲食や宿泊に繋がる。信濃町でもどうか。

#### 信濃町 鈴木町長

黒姫スキー場は民営だが、斑尾ではリフト券の無料配布も行っており、農家民泊と連携で組み合わせができれば良い。

### (2) 令和5年度連携事業の進捗状況について

#### 事務局

資料2について説明

#### 坂城町 山村町長

職員人材確保事業は、飯綱町の受験者が多いが要因は。

#### 飯綱町 峯村町長

第一志望を長野市、第二志望を飯綱町として応募してくれる人が多かった。素晴らしい人材が集まっており、ここ数年は新卒採用より多くなっている。

#### 長野市荻原市長

住まいはどこに住んでいるのか。

#### 飯綱町 峯村町長

町内に住んでいたただければベターだが、通勤可能な範囲でお願いしている。

(3) 第二期長野地域スクラムビジョンの一部改定について

事務局

資料3-1、2について説明

(質疑なし、原案のとおり決定)

**4 意見交換**

須坂市 中澤副市長

インター周辺開発の資料を配布させていただいた。48ha、東京ドーム10個分という大規模な開発になり、求人倍率の増や個人住民税の増、観光誘客、インター利用増に繋がると考えており、広域での活用をお願いしたい。核となるイオンモールは2025年秋のオープンで進めており、イオンモールだけでも2,000人の雇用が必要となるほか、年間の来場者も800～1,000万人を見込んでいる。須坂市だけで賄えるものではないので、北信地域の有益な施設となるよう協力をお願いしたい。

小布施町 桜井町長

今回、新たに2つの事業に参加させていただいた。引き続きよろしくをお願いしたい。

空き家はあるが表には出てこないものや、貸さない物件が多い。新たな方に入ってきた、リフォームして住んでいただくことが理想だが、うまくマッチングができていない。良い例があれば教えてほしい。

事務局

空き家バンクを宅建協会と一緒に作って行っている。また、改修補助金や家具等の処分補助金を交付している。中山間地域が中心で7割ほどが成立している。空き家として出てこない物件は、我々も課題となっている。地域の皆さんが空き家を活用する意識を持っていただくと比較的うまくいっている。

高山村 内山村長

職員人材確保事業に追加をさせていただいた。村で生まれても村に残らず、村に就職する人はほとんどいないのが実態である。何とか村外の希望者で賄っているが、ここ数年はまったく足りていない。圏域全体でカバーできるシステムがあるとありがたい。

小川村 染野村長

37事業に参加している。小さな村単独では出来ない、また効果が出ない事業など、非常に助かっている。公共交通利便性向上事業は、学校、病院など小川村の生活圏である長野市まで高齢者は200円で行くことができる事業で村民は非常に喜んでいる。現在参加していない事業についても再度検討をしていく。

飯綱町 峯村町長

地域課題を解決するDX専門人材プロジェクトを圏域全体で進めてはどうか。プラットフォームを構築し、交流を図ることで新たな行政サービスやビジネスの創設に繋がらないか。県知事もDXを大きな目標に掲げており検討をお願いしたい。

#### 長野市 荻原市長

合同職員研修実施事業ではやっているのか。

#### 事務局

様々な社会課題を解決するため、長野市職員を対象に開催している研修に各市町村職員も参加していただいている。DXについても当然、人口減少社会への対応や新たなイノベーションに必要な研修となると考えているので、担当部署と相談する。

#### 飯綱町 峯村町長

特別交付税も限度額まで使っていない状況である。全額使えるよう進めていただけるとありがたい。

#### 信濃町 鈴木町長

飯綱町と同じくDX人材の確保に苦慮している。エンジニアなど専門人材を圏域で雇用することで、職員のレベルも上がり、システムの標準化にも対応できる。国でも市町村と県が連携することが必要だと言っており、国が進める流れにも合致すると考えている。

#### 事務局

自治体が取組むDXには庁内DXと企業を巻き込んだ産業DXがあり、長野市でも産業DXには専門人材の育成など支援を行っているが、庁内DXが大きな課題となっている。今後の取り組むべきテーマとして検討したい。

#### 坂城町 山村町長

脱炭素化への新たな取り組みとして、町内製造業者などの技術的支援を行っているテクノセンターがZEB化を国の助成を受けて令和6年度に行うため、町も支援する。また、千曲市とごみ処理を行ってきたが、古い施設を50億円ほどかけてリサイクルセンターに改修する。日本でも初となる新プラ法に対応したリサイクルセンターを令和8年度に向けて進めていくので、色々と相談させていただきたい。もう1点、老朽化した保健センターと老人福祉センターを町の中心部に複合センターとして図書館の分館も入れて令和8年度に整備する。SDGsとDXの見える拠点として進めていく予定で、連携できる可能性もあるので相談しながら進めていきたい。

#### 千曲市 小川市長

本市でもデジタル外部人材の確保は課題となっており、共同で取り組めるとありがたい。移住、ふるさと納税を進めるため、昨年ふるさと振興課を設置し、移住合同相談会には毎回参加させていただいている。ふるさと納税もR5の実績が好調だったとの報告があったが、食品加工工場が多いので、共通返礼品に協力できているのではないかと感じている。

#### 長野地域振興局 尾島局長

日頃、県の取り組みにご協力をいただき感謝申し上げます。また、能登半島地震への支援についてもご協力をいただき感謝申し上げます。連携中枢都市圏で進める地域住民と密着した

取り組みについては、大変心強く感じている。移住推進、ゼロカーボンの取組など県としましても一緒になって進めてまいりたいと考えている。

#### 長野市 荻原市長

先ほどは第二期長野地域スクラムビジョンを改定していただき、新たな事業にも参加いただいた。長野圏域がより一体となって力を合わせて取り組んでいきたいと考えている。人口の社会減ではあるが、静かな本地域で暮らしたいといった人は一定層いる。移住に繋がる空き家の確保や移住相談は皆さんと連携しながら今後も進めていきたい。また、職員の人材確保も大きな課題として考えており、連携して取り組んでいきたい。話は違うが、白馬村の海外旅行者が増加している。併せて海外資本が入り、不動産も高額で購入され、村全体の固定資産税も上がっている。斑尾スキー場もシンガポール資本になると聞いており、海外から旅行者が来て良い面もあるが、一方で昔から住んでいる住民にしわ寄せが来ることは避けなければならない。圏域として備えも必要となると考えており、皆さんと相談していきたい。

以上